

棚田通信



NO16 2012.11

美しい石積み棚田の里だより

NPO法人 恵那市坂折棚田保存会

第18回全国棚田(千枚田)サミットに参加して

10/19日～20日、熊本県山都町で全国棚田サミットが開催され、当保存会から8名が参加しました。今回は飛行機を使いましたので、比較的体の負担は楽でした。大会のサブテーマは“子供たちへ残そう地域の宝”でした。大会の始まりのオープニングセレモニーは、矢部小学校児童全員の合唱で始まりました。少子化の21世紀の中で、すべてのことに通じるわけですが、次世代を案じて生活の営みを学んでいってほしいという願望が込められているようでした。その事は会場いたるところにみられ、児童・生徒の作品を展示したり、夜の全体交流会の催しものの中にも数多くみうけられました。その一例をあげれば、祭り太鼓・おどりの演出を親が一生懸命手伝うという風景等です。未来を担う子供たちに夢を託そうという願いがあるようにみうけられました。



メイン会場となった山都町営中央体育では、通潤橋を中心とした施設が整えられていました。この橋は国の重要文化的景観の指定を受けていました。この橋の敷設について説明を加えますと、幕末のころ嘉永7(1854)時の惣庄屋布田保之助が、肥後の石工たちの持つ技術を用いて建設した石橋、日本最大級の石造りアーチ水道橋です。灌漑用水として水の無い白糸大地を潤すことに成功しました。当地の観光の目玉にもなっていて、この噴水が見事なものでした。

午後の分科会は4会場あり、それぞれ分かれて参加しました。私は第2で、テーマは“棚田が育み続ける自然と機能”でした。それぞれの3人の発表者は、専門の分野の研究や実践を積み重ねられた方の発表で、興味深く聞くことができました。コーディネーターを務めて下さった宇根 豊氏(たんぼの生き物などの著作で著名な方、農文協)でしたので、自分の持論・研究が豊富で棚田を通して、生き物・歴史と食べ物の関係、「棚田を残すことは、命を残すことにつながるのだ」という言葉が印象的でした。



通潤橋水管の栓を抜いたところ。橋の上から撮る

(文責 河合 哲玄)



熊本県山都町の棚田と坂折棚田

第18回全国棚田サミットが去る10月19日（金）、20日（土）の2日間、九州阿蘇山の麓に位置する山都町で開催されました。坂折棚田保存会から8人参加されました。

山都町は、平成の合併で矢部町・清和村・蘇陽町の3つの町村が合併して出来た町です。坂折棚田は平成15年第9回全国棚田サミットが開催されています。来年は、サミット開催して10年の節目にあたります。

山都町は石橋の多いところで、中でも通潤橋は有名なところ。阿蘇山噴火で出来た台地に水がなく、水稲作が出来ないところでした。江戸末期か明治維新にかけて通水工事がなされたところで、通潤橋は石で作った水管を通しサイフォン方式で高い台地に灌漑水を通し、拡大な水田や畑地が造成されていました。

さて、坂折棚田の灌漑水、山からの清水や谷川や沢からの水を田に入れて稲作を昔から行ったところで全く自然そのままの灌漑方法です。一方山都町の棚田は高いところの川から用水を取り入れ、水路による灌漑方式となっています。田は圃場整備がなされており、区画は大きい。坂折の田は石積みで田が造成されていますが、山都町は土坡がほとんどでした。

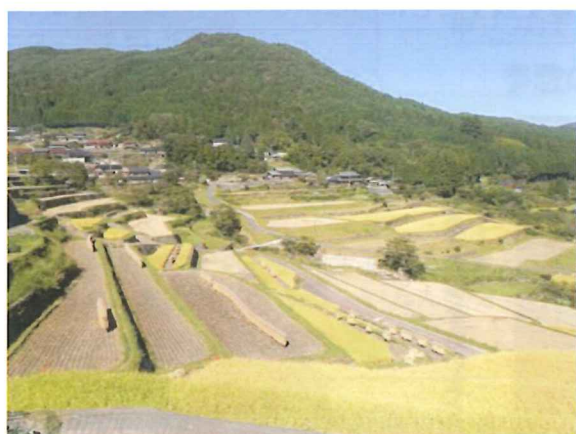
棚田の悩みは「イノシシ」や「シカ」の害でした。当坂折でも年々イノシシの出没が増加しており、その対策をしないと棚田を守ることは出来ません。



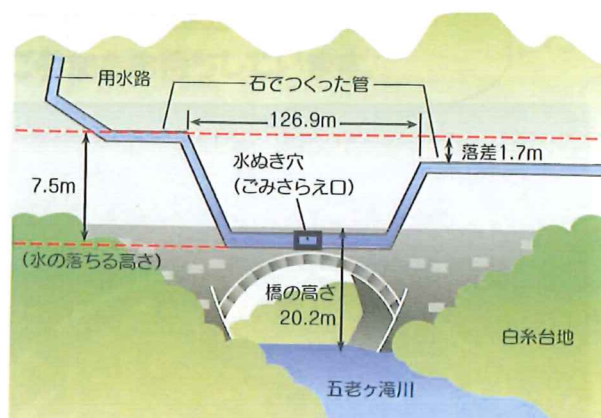
山都町：菅の棚田（遠方が阿蘇山）



「通潤橋」放水の瞬間



恵那市坂折棚田



通潤橋が水を送る原理

収穫祭(かいかぶ祭り) オーナー参加者 180人

去る10月27日(土)に第7期坂折棚田オーナーの収穫祭が行われました。幸い好天に恵まれ、秋晴れのすがすがしい日、午前10時から祭りを始めました。

今年は、棚田コンサートをかりかぶ祭りに組み込んで行い、オーナーの方々と地元参加者との交流が一層充実しました。祭りの流れは下記のとおり。

(敬称略)

開会のことば

あいさつ 理事長 田口 謙
市農業振興課長 各務 一彦
オーナー代表 鶴田 正道

交流会 ・いももち・五平もち・赤飯・大福もち
・棚田汁・餅つき

棚田コンサート フルート・オカリナ “フレンズ”

餅投げ オーナー参加

閉会のことば



オーナー代表で挨拶をされる鶴田さん

* オーナーの方に玄米 30 kg (15 kg 入り 2 袋) を渡し、来年も参加されるようお願いしたところです。



餅つきとオカリナコンサート♪(写真奥)



熱戦! 餅なげ

第1回案山子コンクール行う

♪山田のなかの一本足の案山子・・・♪と昔歌われ、秋の棚田の風景でした。稲穂をスズメがついばみ、被害が出るのを防ぐため案山子が立てられました。いかにものどかな風景でありました。最近全くその姿を見ることが出来ません。案山子コンクールを行って懐かしい風景を再現するとともにオーナーの方々と楽しく交流を深める事をねらいとして、案山子コンクールを実施しました。

入賞者は下記のとおりです。(敬称略)



最優秀賞	古田三恵喜 山田 和美	棚田に案山子はかかし ませんで賞	佐橋 季恵
優秀賞	柘植 一光	案山子とわからんで賞	鈴村 今衛
棚田に案山子はかかし ませんで賞	杉浦 友彦	理事長賞	所 維織

林 律様から高額の寄付を受ける

林律さんは、中津川市蛭川の出身で、医学博士です。枚方市で林耳鼻医院を開業されています。2年前（H22年）からNPO 恵那市棚田保存会の正会員となっていたいていました。10月8日に坂折棚田を訪問され、美しい石積み棚田を見て保存会活動の大変な事に思いをはせて、その活動の一助となればということから、高額寄付をして下さいました。誠にありがとうございました。

林律さんは小生（田口）の小学校の同級生で棚田に深い理解をしていただいております。

（田口）

平成25年版棚田の四季カレンダー・年賀状が出来ました



【棚田の四季カレンダー】



【年賀状】

*協力金	カレンダー	1部	500円
	年賀状	1枚	70円

*一人カレンダー2部程度のご協力をお願い申し上げます。
棚田の保全は皆様のご協力なしには継続できません。

お知らせ



第7回坂折棚田石積み塾の開催

と き：11月24日（土）～25日（日）

と ころ：坂折棚田

参加費：7,000円（昼食付）

申込みは11月20日（火）まで

多数のご参加をお待ちしています。

あとがき

今年も沢山の方が坂折棚田を訪ねて下さいました。写真撮影の方、絵を描く方、風景を楽しむ方等々。お茶番処でお茶を飲みながら、いろんな方とお話をさせていただくのが楽しみです。

年末～3月までお茶番処は冬休みになりますが、煙突から煙が出ている時はどうぞお立寄りください。

NPO法人恵那市坂折棚田保存会 電話：0573-23-2032 * FAX：0573-23-2046 * 携帯：080-1553-0315

E-mail: sakaori-tanada@ia1.itkeeper.ne.jp ホームページ：坂折棚田

検索